



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●鮮やかな色の秘密

ーミカドウミウシー

数年前、やたらハリセンボンが多かったのを覚えている人も多いと思います。あれほど極端ではないにしても、毎年海を見ていると「今年は〇〇が多いな」と感じる事がよくあります。年によって、ブダイだったり、マンジュウヒトデだったり、シラヒゲウニだったり、イセエビだったり、さまざまですが、今年の夏多かったのは、モクズショイ（アムスルだより No.56 で紹介したカニの仲間）、アカヒメジュズベリヒトデ、そしてミカドウミウシでした。今回は、このミカドウミウシについてお話ししましょう。

場所によって違うのでしょうかけれど、マジノハマでは、ミカドウミウシは、いつもはそんなによく見かける生き物ではなく、せいぜい年に1回ほどですが、今年はずでに7、8回見ました。実はアムスルだより（No.23）ですこし紹介したの

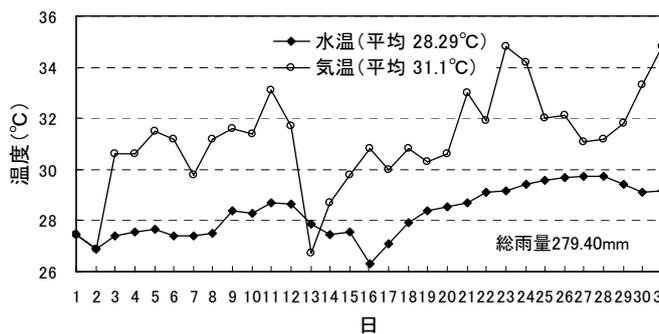
ですが、このウミウシは、体の縁のひらひらした部分を波打たせながら海中を泳ぐことで有名です。その姿が、鮮やかな紅色の体色と相まって、スカートを振りながらフラメンコをおどる人のように見えることから、英語では“スパニッシュ・ダンサー”と呼ばれます。

鮮やかな紅色と書きましたが、ミカドウミウシの学名は“ヘキサブランクス・サングイネウス” (*Hexabranchnus sanguineus*) といい、この「サングイネウス」というのは「血のように赤い」という意味で、やっぱり鮮やかな赤色が、その由来になっています。

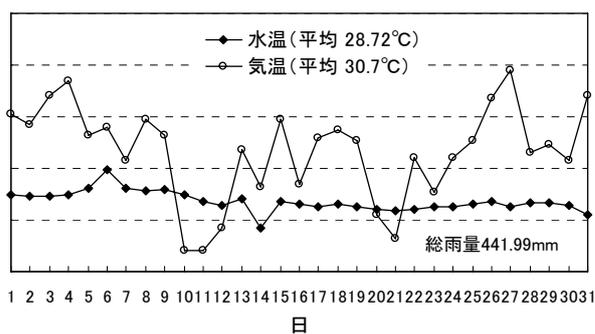
では、どうしてミカドウミウシは、こんなに派手な色なのでしょう。ミカドウミウシにかぎらず、ウミウシの仲間には派手な色のものが多いのですが、それはウミウシが武器をもっていて、鮮やかな色でそれを相手に知らせて襲われないようにしている（‘警告色’^{けいこくしよく}とよばれます）という説があります。ミカドウミウシは、ミノウミウシの仲間のように毒針をもっているわけではありませんが（アオミノウミウシの毒針をアムスルだより No.79 で紹介しました）、エサとして食べているカイメン類から毒を取り込んで、体の中にたくわえていることが知られています。派手な色は、「自分は毒をもっているぞ」と知らせるためなのでしょう。けれども、そう考えるには1つ大き

定点観測

2007年 7月



2007年 8月



な疑問があります。それは、ミカドウミウシは、昼よりも夜に活発に動き回ることです。体の色が、警告色としてはたらいっているのならば、もっと敵の多い昼間でもどンドン這い回ったり、泳いだりしていても良さそうなものです。そう考えると、この説はあまりしっくりときません（しかも、今のところウミウシの警告色は実験的に証明されたことがないそうです）。

では、赤い体色の理由はなんなのでしょう。もしかしたら、警告色とは、全く反対に保護色としてカムフラージュに役立っている可能性も考えられるのです。例えば、きれいな緑色のウミウシの仲間のタマノミドリガイも緑の海藻の上にいれば目立たないし、オレンジ色のイボヤギミノウミウシも同じくオレンジ色のイボヤギ（サンゴの一種）のそばなら見づかりにくい、といったものは保護色として考えやすいのですが、ミカドウミウシの赤い色はどうでしょう。このウミウシは、1ヶ所でじっとしているタイプではないので、前の2種の例とは同じには考えられませんが、次のようなことを考えることもできます。海水には、赤色は吸収されてあまり透過しないという性質があります。そのため、ひどく明るければ別ですが、ちょっとしたかげにかくれば赤色は黒っぽくなって、思った以上に目立たないのです（夜ならなおのことです）。

よう）。人は、明るいとこらだったり、ライトを当てたりするので、はっきり色が見えますが、自然の中でそう見えているとは限らないのです。つまり、ミカドウミウシの赤いまだら模様は、弱い光の中で黒っぽくなり、まわりの景色に溶け込ませているのかもしれない。とはいえ、これも説の1つで、正しいかどうかはこれからの研究が必要ですし、まだほかの鮮やかな色彩をもつウミウシの説明にはなっていません。

美しい生き物や不思議な形をした生き物はたくさんいて、それを目にすることはとてもうれしいことですが、その美しさや形の理由を推理してみるのも、なかなか楽しいものです。

● 阿嘉島の海より

一ヶ月ほど前からテレビや新聞で石垣島のサンゴの白化現象が話題になっています。私も石垣島に行く機会があったので見てきましたが、かなり深刻な状況で、1998年に慶良間でおこった白化現象を思い出しました。では今回阿嘉島の周りのサンゴはどうでしょうか。クシバルのイノー（写真）や浅いところでは白化しているサンゴがありますが、全体的にはそれほどひどいことにはなっていないようです。ちょっと一安心です。

